

報道機関各位

公益財団法人東北活性化研究センター
「内閣府 景気ウォッチャー調査 平成24年7月東北分
(新潟を含む東北7県)」について

公益財団法人東北活性化研究センター（会長：高橋宏明・東北電力㈱取締役会長）は、このほど、「内閣府 景気ウォッチャー調査 平成24年7月東北分(新潟を含む東北7県)」についてとりまとめましたのでお知らせいたします。

(1) 現状判断（3か月前との比較、方向性）

- ・現状判断DI「43.0」（▲2.3）は、4か月連続で前月を下回り、景気判断の基準となる50を3か月連続で下回った。
- ・家計動向…不安定な天候から季節商材の動きは鈍く、買い控えや低価格志向を背景とした価格競争に変化はみられない。DIは「41.0」（▲1.7）と4か月連続で前月を下回り、景気判断の基準となる50を3か月連続で下回った。
- ・企業動向…円高等により、製造業をはじめとして受注や販売の動きに厳しさがうかがえる。DIは「46.3」（▲2.5）と2か月ぶりに前月を下回り、景気判断の基準となる50を4か月連続で下回った。
- ・雇用動向…求人動向については業種によりばらつきがある。円高の影響による大手製造業の生産拠点再編により、離職者が生じている。DIは「50.0」（▲5.7）と2か月ぶりに前月を下回ったが、景気判断の基準となる50を13か月連続で上回った。

(2) 先行き判断（3か月先の見通し、方向性）

- ・先行き判断DI「44.6」（▲1.2）は、3か月連続で前月を下回り、景気判断の基準となる50を3か月連続で下回った。
- ・家計動向…買い控え、低価格志向を背景とした価格競争は続き、エコカー補助金終了後の反動減が見込まれる。また、消費税増税問題等による先行き不透明感から消費マインドへの影響が懸念されている。DIは「43.3」（▲0.5）と3か月連続で前月を下回り、景気判断の基準となる50を27か月連続で下回った。
- ・企業動向…円高により輸出環境は厳しい状況が続いている。DIは「48.8」（▲0.6）と2か月ぶりに前月を下回り、景気判断の基準となる50を3か月連続で下回った。
- ・雇用動向…求人動向については一部に陰りが見え始めてきている。DIは「45.5」（▲6.8）と2か月ぶりに前月を下回り、景気判断の基準となる50を15か月ぶりに下回った。

(3) キーワード

- ・プラスのキーワード
 - …天候（先行き）
- ・マイナスのキーワード
 - …低価格志向・買い控え（現状、先行き）、天候（現状）、エコカー（先行き）
 - 消費税増税（先行き）、円高（先行き）

以上

<添付資料>

- 調査結果の概要

<お問い合わせ先>

公益財団法人 東北活性化研究センター(担当:佐藤(健))

〒980-0021 仙台市青葉区中央2-9-10

TEL : 022-222-3394 FAX : 022-222-3395

【調査結果の概要】

1. 今月のDI※

(1) 現状判断（方向性）DI

3か月前との比較である現状判断DIは、「43.0」（▲2.3）と4か月連続で前月を下回り、景気判断の基準となる50を3か月連続で下回った。

	23年							24年						
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
東北現状	52.8	59.5	49.9	47.8	50.4	49.8	49.6	47.3	47.2	53.6	51.2	47.8	45.3	43.0
家計動向関連	52.3	59.6	46.6	44.4	48.9	48.4	46.7	43.9	43.0	52.3	50.2	47.0	42.7	41.0
企業動向関連	59.9	57.5	52.5	52.6	50.0	50.6	51.3	50.0	51.2	51.3	47.5	46.9	48.8	46.3
雇用関連(参考)	42.9	63.1	66.7	60.7	60.7	57.1	65.5	64.3	66.7	66.7	64.8	54.5	55.7	50.0

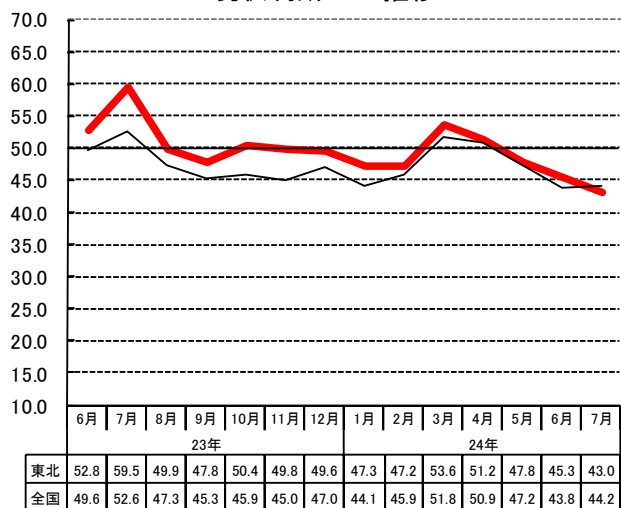
(2) 先行き判断DI

3か月先を予想する先行き判断DIは、「44.6」（▲1.2）と3か月連続で前月を下回り、景気判断の基準となる50を3か月連続で下回った。

	23年							24年						
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
東北先行き	49.2	51.0	48.6	46.7	49.4	46.6	47.2	50.9	50.4	49.1	51.1	49.4	45.8	44.6
家計動向関連	47.1	47.4	45.4	45.3	49.6	45.7	44.3	48.4	48.2	46.9	49.5	49.3	43.8	43.3
企業動向関連	53.3	56.3	54.4	49.3	45.6	46.3	51.3	54.3	54.9	51.3	55.6	48.8	49.4	48.8
雇用関連(参考)	56.0	64.3	59.5	51.2	54.8	53.6	58.3	60.7	56.0	59.5	53.4	51.1	52.3	45.5

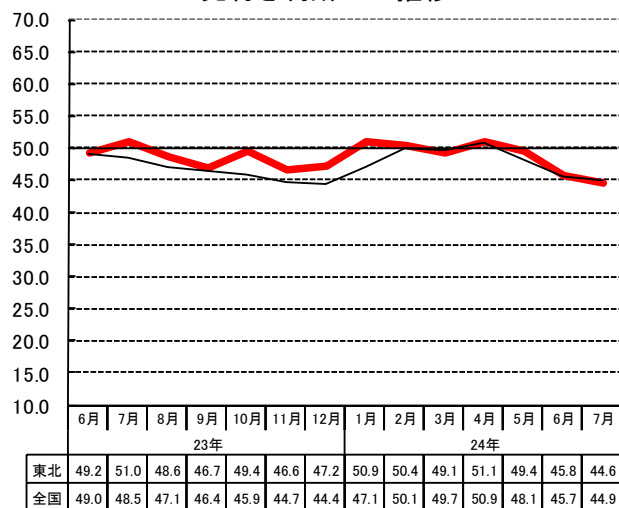
※DI（Diffusion Index）について…50を基準とし、50を超えると景気が良い方向にあることを示す。

現状判断DIの推移



— 東北 — 全国

先行き判断DIの推移



— 東北 — 全国

2. 調査の概要

調査期間 平成24年7月25日～31日

回答者数 204/210名、回答率97.1%（全国1,872/2,050名、91.3%）

3. 特徴的と思われる判断理由（ウォッチャーのコメントから抜粋）

（1）現状判断理由

○「良くなっている」

（住宅販売会社）…民間受注も順調であるが、公共建築工事受注が既に今期受注目標額に達している。

○「やや良くなっている」

（旅行代理店）…4～6月と復興関連の部分で少し落ち着いた感があったが、9月以降にまた、旅行関係の仕事の見積依頼が増えてきている。

（観光名所）…来客数は前年とさほど変わらないものの若干の落ち込みとなっている。しかし、1人1人の購買意欲はあるようで、客単価が上がり、売上は前年を上回る結果となっている。

（美容室）…新しいメニューを注文する客が多く、単価が上がっている。

（建設業）…今年度に入り、復興関連工事及び除染業務が受注高の多くを占めており、復興関連が本格的に動き出した感がある。

（人材派遣会社）…引き続き、人材紹介の引き合いが強い。20～30%の紹介料を払っても、採用したい意向が強く、意欲的である。

○「変わらない」

（スポーツ用品店）…今月のバーゲンで売上がやっと前年を5%上回っている。しかし、バーゲンのため、単価が低い。また、安くても必要以外の商品の販売が無い。

（スーパー）…競合店のチラシディスカウントによる集客減に加え、買上点数が伸び悩んでいる。前年は震災復興特需があったため、来客数、売上が前年比で10%ほどダウンしている。

（家電量販店）…当県は引き続き復興需要が堅調である。他県に比べるとテレビの停波による影響も少なく、売上は堅調に推移している。今後もこういった電力会社からの賠償金等を見込んでの買物もあるようである。エアコンに関しては、季節的要因があるが平年並みである。

（乗用車販売店）…新車販売面では、エコカー補助金の駆け込みの受注残の登録が進み、前年比では140%前後、前々年比でも10%近い伸びを示している。しかし、今月の受注面では、補助金対象車の生産が間に合わないこと、並びにボーナス支給の低調さから、伸びが期待レベルを大きく下回る結果となっている。

（酒類専門店）…お中元の動きがあるが、前年と同じくらいの発注量で、単価も下げ止まった感がある。しかし、飲食店関係が悪く苦戦している。店頭では、引き続き単価のリーズナブルなものや安いものが定番で推移している。

（一般レストラン）…例年だと夏は繁忙期ということで、かなり混みあう時期になるが、今年に限って言えば、これまでの月と同様、低調な状態が続いている。まだまだ財布のひもが固いという実感がある。

（観光型旅館）…前年同時期に比べ、やや収益が悪くなっているが、今月は例年閑散期なので落ち込みの幅も少ない。感触としては、総じて前年より低調ではあるが、3か月前との比較では変わらない。

（都市型ホテル）…震災復興の影響が一段落し、前年秋口以降から続いた宿泊、レストラン、会合の来客数もかげりが出始め、来客数は前々年に近い状況となってきている。しかしながら、売上は若干順調を維持している。

（通信会社）…オリンピックに向けて、家電などの消費も上向き、関連した商売にも良い影響があると予想していたが、ほとんど変化のない状況である。また、雷雨など不安定な天候が続き、夏らしい暑さもないため、財布のひもが固いままになっている。

（観光名所）…前年は高速道路の無料化の効果も見られたが、本年はそれもなく、なかなか上向いてこない。

（木材木製品製造業）…住宅部材の動きは、例年6月ごろから需要が強くなる傾向がみられるが、今年はまだ弱いまま推移している。

(建設業) …客に自然災害への意識が強く残っており、住宅の外部改修やリフォーム工事に根強い人気がある。

(企画業) …地場ビルダーの受注棟数は過飽和状態で、納期対応のための職方確保が困難な状態である。したがって、割高の工賃で人工手配を余儀なくされ利益率の低下を招いている。

(人材派遣会社) …派遣業界や食品メーカーでの求人が増えてきており、なかなか充足しない状況が続いている。

(職業安定所) …新規求人数は前年同月比で引き続き増加しているものの、製造業を中心に人員整理を行う動きがある。

○「やや悪くなっている」

(百貨店) …夏物商材の動きが悪い。なおかつ、この時期のもう一方の売上の柱である中元の動きも悪い。

(スーパー) …前年と比べて梅雨明けが遅く、夏らしくない天候で、飲料水、氷菓、スイカなどがダウンしている。大切な丑の日もうなぎの高騰で良くない。また、前年あった節電商品のプラスがない。

(コンビニ) …2か月前までは、来客数が前年比100%を超えていたが、今月は90%前半となり苦戦している。客単価は100%を維持している。

(衣料品専門店) …夏物のセールが始まったが、盛り上がりには欠ける状態である。欲しいものはセールではなくても購入するし、安くなったからといって購入するわけではない。

(パソコン専門店) …相談依頼や見積依頼の話が多いのは良いことだが、実際の売上には結び付いていないのが現状で、販売数や受注数は減ってきているようである。

(靴専門店) …大手流通のショッピングセンターが新店し、来客数が減少している。特に土日の落ち込みが大きい。

(観光型ホテル) …前年中止した会合等については落ち着いてきている。そのためか、特に遠方からの客が多少減少している。また、近くからの従来の客も、単価等いろいろな条件を近々まで見定めた上で予約をするという状況が続く、まだデフレの状況が続いている。

(テーマパーク) …夏季に入り、中高年層をメインとした復興支援団体旅行客の動きが鈍くなり、夏休みの主要ターゲットであるファミリー層の動きは思ったより伸びていない。原発事故の風評被害はまだ大きいようである。

(出版・印刷・同関連産業) …毎月月末にその月の受注残を調査しているが、ここ3か月、減少し続けており、景気は下り坂の傾向にある。

(通信業) …設備投資を控えて、経費削減を優先させている。

(職業安定所) …管内の大手企業において、早期退職優遇制度により200名を超える従業員が退職している。当管内は今後も厳しい雇用状況が予想される。

○「悪くなっている」

(百貨店) …適正な時期に適正な価格で販売するという当社グループの考え方から、本年より7月の夏のセール開始時期が2週間後倒しとなっている。その影響が売上にもろに反映されている。県内、同業他社、スーパー、量販店、また同地区のファッションビルはセールを1日からスタートさせており、客は先に買物を済ませている方も少なくない上、2週間遅らせたことにより、値下げ率が大きく客単価が低くなるという状況も出てきている。結果、予算比、前年比共に落とすような最終着地になりそうである。

(広告代理店) …印刷物における価格競争が激化している。節電等々で経費削減が進んだ結果か、これまで特命や随契が許されていた物件が軒並み入札や見積合わせとなっている。

(2) 先行き判断理由

○「やや良くなる」

(百貨店) …7、8月の夏物セール商戦はグループのセール時期の考え方の変更で2週間後倒しでスタ

一トさせたため厳しい結果となったが、秋物商戦はこの反動がうまく秋冬の商売につながるのではないかとみている。客は夏のセールが2週間後倒しになった分2週間気持ちが後にずれているわけではなく、もう夏物にはあきあきしており、既に関心は夏物セールにはないのではないかとみている。8月はまだ体感的にも暑く、秋物を買う意欲にまで繋がらないとしても、その分、9、10月の反応は早いのではないかとみている。

(衣料品専門店) …割引率や低価格といった商品に踊らされる客が減少し、気に入った商品が予算内であれば購入していく客層が増えている。このことから、天候が暦どおりに推移すれば、回復の兆しが出てくるとみている。

(旅行代理店) …今の見積依頼や問い合わせの件数からみると、非常に良い形で推移していくことが予想される。ただ、この需要が本当の景気に対する需要ではなく、特需の感があるようにもみえるので、その辺で不透明感はある。

(建設業) …民間企業を発注支援業務等に活用する前提において、復興案件の出件、受注がある程度進捗することが想定される。加えて、作業員や資機材の不足も時間の経過とともに解消されていくと考えられる。

(輸送業) …国際定期便の就航により、やや良くなる。

(広告業協会) …広告市場を支えてきた遊技場関係の出稿が規制により今後は厳しくなることが予想される。しかしながら、復興がらみの自治体広報活動が活発であることに加え、住宅関係も依然受注残を抱えており、それほどマイナスにはならないとみている。

○「変わらない」

(スポーツ用品店) …催事を繰り返すことでしか売上の確保ができないような雰囲気がある。

(医薬品販売店) …売上が良くなってきているのは事実だが、来客数の減少は止まっておらず、微々たるものだが減っていつている。季節的なものもあるので、需要はあるとみているが、以前のような売上を作るのは至難の業である。客も必要なものは買うが、それ以上は買わない傾向が続いている。今後もあまり変わらないのではないかとみている。

(百貨店) …中心市街地、商店街全体が活性化しないので吸引力が弱い。特に日曜日を定休日にする商店や閉店店舗が多くなっている。郊外への新店オープンやショッピングモールへの無料バスなども影響し、先行き回復がみえない。

(スーパー) …8月は、猛暑の影響がさらに続く様なら、農産品への悪影響で品質悪化と品薄での高騰が始まる反面、水物、涼味商材は動きが活発化し、継続して幾ばくかは良くなる。一時的にせよ売上前年比伸び率が若干上向き傾向を示しているため、その傾向が続くことを期待したい。

(スーパー) …競合店の数も変わらず、チラシディスカウント攻勢も続くとみられる。現状と変わらないと予想している。

(衣料品専門店) …経済の不透明感により、最低限必要なものしか購入しない様子が見られる。

(自動車備品販売店) …車検入庫数に変化はないとみる。市場から高年式車が消えたため、補修台数も増える見込みはない。補修市場が縮小している。

(住関連専門店) …当県の住宅着工件数は若干上向きだが、耐久消費財、特に家具については、そこに入れられるものの購入単価も下がってきているため、回復の見通しは厳しい。低価格の商品がまだ売れており、高級品との差別化でやっているが、その辺りが多少鈍い。

(白衣・ユニフォーム専門店) …衣替えの時期が遅れている。10月1日も従来どおりに一斉に衣替えにならず、おそらく時期がずれ込むであろう。また、秋冬物の関しても動きが読めない状況である。

(通信会社) …大手通信会社の集中的なWiFiCM展開の影響で、新たな顧客の掘り起こしが進んでいる。しかし、本来の個人消費が下降気味なため、これまでの利用者の解約数を補い、上回るまでにはなっていない。このため、差し引きすると大きな変化は見られない。

- (電気機械器具製造業) …欧州の財政が安定せず、円買い傾向が続くため、円安に向かう兆しがみえない。
- (金融業) …消費税増税の動向から、住宅建設業者の面談件数が増加傾向にあるものの、必ずしも契約には至っておらず、動向を見極めていく必要がある。
- (飲食料品卸売業) …復興関連従事者の来県により、引き続き、飲食店からの需要が見込まれる。更に好調となるには、今夏の観光需要の回復が鍵となるが、予想は厳しい。
- (人材派遣会社) …2、3か月先の需要案件に乏しく、自治体の入札案件に依存する度合いが依然として高い。
- (新聞社〔求人広告〕) …建設関連など直接復興に関わっている企業を除き、内陸地域には復興景気がやや落ち着いた感があり、今後の動きが読めない状況である。
- (職業安定所) …弱電関連の事業所数社から人員整理の相談を受けており、更に広がらないか危惧している。

○「やや悪くなる」

- (医薬品販売店) …震災直後から開始された各種の負担軽減措置が、震災後2年目に入り平常通りに課金されるようになってきている。
- (コンビニ) …売上、来客数の動向については、同じエリア内でも店ごとの格差が明確になってきている印象がある。比較的好調な店についても、右肩上がりというわけではなく、ごく一部の店を除いて伸びは鈍化してきている。
- (ショッピングセンター) …現状は政策が非常に先行き不透明であり、ファミリー層の消費動向が減少傾向にある。現在はゲームセンターやレストラン、フードコートの落ち込み分を物販でカバーできているとはいえ、館内全体の来客数も減少傾向にあるのは事実である。今後、景況感が向上しなければ、館全体の売上も落ち込むことが懸念される。
- (観光型ホテル) …海岸線の復興などがまだまだ良くなっていないということが流布されているため、一部の観光地だけが良く、総合的に東北地方に来たいと思われていない様子がうかがえる。本来の観光などが目的の集客については、本当の意味での観光あるいはグルメといったものはまだまだ条件がそろっていないため、しばらくは現在の状況が続く。
- (都市型ホテル) …宴会場の予約状況は週末の定例物件以外、婚礼、宿泊共に全く動きが無い。
- (観光名所) …前年の7月も唯一来客数が前年の90%まで達した月であった。夏は暑いという条件さえ守れば、売上も例年並みになるとみられるが、9月10月と進んでいく上で、季節にめりはりが無い月は売上はさほど上がってこないため、今よりはやや悪くなるのではないかとみている。
- (農林水産業) …転作作物である蕎麦の出荷先業者によれば、畑作物の戸別所得補償制度がスタートしたことにより、蕎麦の作付けが全国的に増えたことから、玄蕎麦の在庫が余剰気味とのことである。よって、今年度の玄蕎麦買取価格は、大幅に下落することが予想される。
- (金属工業協同組合) …今後とも受注環境は全く不透明であり、良い材料は見受けられない。これまで良かった建機等の受注も減少している。
- (職業安定所) …県内で工場閉鎖や大量の希望退職者の募集が数社出てきており、その影響が県内各企業に多少出てくることが予想される。

○「悪くなる」

- (乗用車販売店) …エコカー補助金が8月の中旬ごろには終了し、その後の反動減が予想される。何とか新型車発売等によって、受注喚起策で減少幅を抑えたいと思っているが、減少幅は20%前後の前年割れになるのではないかとみている。

東北地域に関する解説は、当センターの責任でまとめたものです。

以上